



みずみどり

2019年 9月15日 第134号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124

虫たちの一生 (1)

夏になるとバッタ広場にはいろいろな虫たちが出現し、身近に生き物達が暮していることを気づかせてくれます。今回は私たちがよく目にする虫たちの魅力あふれるくらしをご紹介します。

バッタ類やカマキリ

写真は8月17日、夏の盛り、草むらにいたショウリヨウバッタ

中央の大きいのが♀、カラーでないので判別できませんが、左側に茶色のみ、右側に緑色のみが



います。草と同じ色なので見つけづらいですね。バッタもカマキリも緑色と茶色があります。

♂2匹と♀で婚活中。ショウリヨウバッタもオンブしますが、オンブバッタよりオンブしている時間が短い。バッタ類の成長は早いです。

7月9日、高島第5小学校3年生18名の校外学習で子ども達と生き物を探しました。バッタ広場の外側の草地をみんなで探すと、いる、いる、1cm~2cmのオンブバッタ、ショウリヨウバッタがあちこちに見つかりました。そしてごく狭い範囲でたくさんのクビキリギリスの赤ちゃんが跳ねていました。多分生まれたばかりだったのでしょう。赤ちゃん達は突然人間が大勢現れて、右往左往、踏みつけられたあかちゃんもいたかもしれません。翌日同じところに行ってみましたが、キリギリスの赤ちゃんは見当たりませんでした。小さな生き物達は散らばって草むらの陰に隠れているのでしよう。

行って見ましたが、キリギリスの赤ちゃんは見当たりませんでした。小さな生き物達は散らばって草むらの陰に隠れているのでしよう。



写真上：カマキリの幼虫です。大きくても羽がないので幼虫です。羽のもと（翅芽）があります（2017年8月17日）。

同じところに3cm位のカマキリの子どもが何匹かいました。カマキリは小さくても生きた生き物しか食べません。生まれてからすぐに自分で生きた獲物を探すのは大変です。でも子どもとは言え、さすがカマキリ。エサのありがたかわかるのか、バッタの子ども達やキリギリスの赤ちゃんがいる草原に何匹もいました。このようにバッタ広場にはカマキリのごちそうになる虫たちがいっぱいいますが、カマキリを食べるヘビや野鳥などもいて、生き残れるのはわずか。カマキリの卵を家に持ち帰ったりすると、生きた生き物しか食べないカマキリの子ども達の生き残りはさらにきびしくなりますね。

8月11日、観察会で、ショウリヨウバッタ、ツチイナゴ、カマキリ、キリギリスがいました。羽のある成虫のショウリヨウバッタやカマキリもいましたが、羽のない小さな幼虫もいました。



写真左は、8月24日見たツチイナゴの幼虫。

同じ場所に成虫もいました。

下は逆さまになって無防備な姿で脱皮中のツチイナゴ（8月27日）。脱皮後は羽が出来ていま



した。写真左はカマキリの脱皮殻。バッタやカマキリは同じ形で脱皮をくり返してだんだん大きくなり、羽が生えた成虫になります。



秋～冬にカマキリは木の枝などに卵を産み、バッタやキリギリスの多くは土に卵を産んで死んでしましますが、成虫のまま越冬して春に交尾、産卵するのや、土に産卵しないで草の茎などに産

卵する種類もいるようです。なので、冬に虫の姿が見えなくても、幼虫や卵がどこかにいるかもしれないと思うと、草を刈るのがよいのか、そのままにしておくのがよいのかわからず、いつも迷います。

バッタ、カマキリ類の寿命は1年ほどです。

ジョロウグモ

7月に入って、小さなジョロウグモが一人前に立派な網を張っているのに気がつきました。ジョロウグモの網は絵に描かれているような1枚の編み目ではなく、前や後ろにも網がある立体的なもので、小さくてもジョロウグモだとわかります。この小さなジョロウグモが10匹、とんぼ池のフェンスに並んで巣を張っていました。昨年11月とんぼ池のそばのスダジイの幹にジョロウグモが産卵していたので、その子どもたちかもしれません。ここには街灯があり、夜には街灯の光に小さな虫たちが集まる、待ち伏せによさそうな場所です。小さなクモがかけた網にかかったカメムシや、5cm位のカマキリの



子どもがひっかかっています(下)。カマキリは翌日も生きていましたが動けないのです。クモの糸は意外と丈夫です。数日後、フェンスのクモの巣は全部掃除されてなくなっていました。クモたちは別の場所でやり直しです。

小さいジョロウグモは脱皮をくり返してだんだん大きくなります。そばにいる小さなクモはオスグモです。網には脱皮した抜け殻や、食べかすがあって、暮らしぶりが見えておもしろいです。秋には写真左のようにメスは丸々と太り、産卵して一生を終えます。

8月、とんぼ池の草に産み付けられたクモの卵のまわりに小さなクモの子ども達が群れています。このクモについては別の機会に。そうそう、クモは足が8本、昆虫ではありませんね。



セミ

7月9日、バッタ広場ではニイニイゼミの幼虫が地面から出てきました。この日、ため池公園では羽化したアブラゼミがいました。翌10日、私の住む中台でミンミンゼミが初めて鳴きました。セミが地上に出てから生きている時間は数日とか10日とか短い。夏の盛り、たくさんのセミが羽化し、セミ時雨が賑やかになり、枝や杭などには抜け殻がくっついています。羽化出来なかった幼虫、羽が曲がったりして羽化しても飛べないセミ、命を終えたセミが転がっていて、アリが群がっていたりします。命のはかなさを感じます。

自然死ばかりではありません。タカの仲間のツミは、巣立ったばかりのときセミを捕えて餌をとる練習をしていたと聞きました。練習というより、はじめてヒナがとるエサがセミだったりするのでしょうか。私はクモの巣に引っかかったセミや、カラスに捕まったセミを見たこともあります。土からたくさん出てきて盛大に鳴いていますが、地上での生活は短くあっけないです。秋になって、セミの声もか細くなると、生き物達の最盛期の終わりを感ずりますね。

さて、樹上にセミがいるのに、どうして土の中から幼虫が出てくるのか、不思議だと思いませんか。調べてみると、セミは木に卵を産み付け、翌年梅雨の頃、卵から孵った幼虫（ウジ虫のようなものかしら）が落下して（飛び降りて）、地面を掘って土に潜り、木の根から木の汁を吸って土の中で脱皮をくり返して大きくなると書いてありました。セミの成虫を見ると口が注射針のようになっていて、成虫も木の汁を吸っていることがわかります。昆虫にしては長い地下生活と真夏の10日（もっと長いと書かれています）ほどの地上生活、波瀾万丈の人生ですね。長い年月土の中で過ごし、季節や時間の感覚はどうなっているのでしょうか。5月初め、土から出ようか止めようかと躊躇しているセミの幼虫を見たことがあります。10月に出てきた幼虫がいたり、秋に1匹だけ鳴いている季節はずれのセミもいます。

生き物達の人生もいろいろです。

バッタ広場 観察のいろいろ

バッタ広場は、バッタなど昆虫たちがすむ場所として、いたばし水と緑の会が手入れをしています。ここには、バッタやキリギリスなど丈の高い草を食べる虫や、一緒に生えてきた木の葉を食べる昆虫もあつまります。なので、ここには、私たちも含めて「どんな虫がいるかなあ」と思ってくる人が多いです。

公園では野草（雑草）の花や種を見るまでに刈ってしまいますが、ここには懐かしい野草が咲いたりするので、花を見に来る人もいます。

黄色い花が咲くキンミズヒキ（写真右）がきれ



いだと褒められたので、踏まないよう、抜かないよう、気をつけていたら、いたるところキンミズヒキだらけになりました。自然の手入れの中で、こういう「えこひいき」はいけませんね。

バッタ広場に生えている木を観察してみよう

バッタ広場には周囲の斜面林からきた木の種が芽ばえて育っています。高い斜面林の木の葉はよく見えませんが、バッタ広場の木は高さ1m位に毎年切り詰めていて（森にならないよう草地として維持している）、木の葉の形や木の葉を食べる虫たちを観察することができます。

エノキ

バッタ広場でいちばん多く生えている木です。エノキの赤い実は野鳥の好物で、食べた実の種を糞と一緒にバッタ広場に落としていきます。エノキは木陰のない道路際の植え込みにも生えていて、日当たりのよい場所を好みます。日当たりのよいバッタ広場は最適の場所。放っておいたら一面エノキになったこともありました。



エノキの葉っぱの特徴

葉の縁のギザギザは上半分にあり、下側にはギザギザがない。

葉は左右対称ではない。

葉脈は基部から伸びる3行脈が目立つ。

親の木を探してみよう

バッタ広場の低いエノキには実は出来ません。が、秋になるとエノキの高木には直径5mm位のオレンジ色の実ができます。赤～オレンジ色の実がついている木を探してみてください。それがエノキの親？の木です。道路際だと地面に落ちている赤い実の上あたりにある木がエノキです。赤塚城址では、林内にはなくて山の上の日当たりのよい林縁にあります。木の肌の特徴ですが、私は象の足やお尻に似ていると思います。秋になると葉が黄色に色づき、きれいです。

エノキの葉を食べる虫たちが多く（食樹といいます。草の場合は食草）、虫たちを探す楽しみがあります。バッタ広場では、目の高さで見られるエノキの葉に卵を産んでいる蝶を観察したり、かじった跡のある葉っぱのそばにイモムシがいたりします。すっかりおなじみなのは外来種のアカボシゴマダラの幼虫です（写真次頁左上）。在来種のゴマダラチョウは幼虫も成虫も今年まだ見ていません。エサのエノキの葉は十分あるので、在来種のゴマダラチョウが生存競争に負けたということはないのですが、見かけるのはアカボシゴマダラばかりなのは、なぜでしょうか。

ここでエノキの葉を食べるテングチョウ、ヒオドシチョウを見ました。チョウの他にエノキの葉を食べる蛾の幼虫もいます。

蛾の幼虫はエノキだけでなく、他の木の葉も食べるし、種類が多く、調べても名前のわからないものが多くて困りますが、エノキにはいろいろな虫がやってくるレストランのような木です。



白いイモムシ、茶色のイモムシ、シャクトリムシ、葉っぱをぐるぐる巻きにしている虫（右上）や、寄生虫を背中に乗せて養って？生きているイモムシ（右下）等々。



左下写真のブツブツができた葉は、「きもち悪—い」と見たがらない人が多い。エノキトガリタマバエ？という虫の幼虫が入っているムシコブです。

春、この虫がエノキの葉に卵を産むと、虫の出す刺激に反応して葉の一部が異常成長してコブ状になります。このムシコブの中には幼虫（ウジ虫）が1匹入っていて、5、6月頃、ムシコブごと地上に落ちて、幼虫で夏～冬を過ごし、3、4月に羽化して葉に産卵するそうです。

ムシコブをつくる虫にはいろいろな種類があり、それぞれがクヌギ、ヌルデなど決った木の葉や草の茎などに卵を産みます。葉っぱの病気ではありません。

日暮台公園その後

2017年秋に大きな木を10本切ったあともこれまで通りの林内清掃作業（仕様書では春秋の下刈り、冬の下草刈（実生木・ノ枯れ木も）と落葉の除去）が実施されて、ひどいはげ山になりました。

2018年3月に河島所長と話し合い、斜面林とはげ山同然の緩斜面林の下刈りを中止していただきました。

木を切った林内に光が差し込むと、みるみる植生が復活。自然の力はすごいです。この先どのように管理すればよいのか、私にはよくわかりません。



さて10本伐採したうち、直径が50cmもある切り株3本から芽が出てきました。

写真上は様子を理解していただくために、へんな人が切り株の

上に立っています。すみません。左がコナラ樹高170cm、中央はイヌザクラ70cm、右スダジイ2m以上で、親の木の根を利用しているのので、種から発芽した木と比べて、びっくりするほど成長が早い。周囲のクズなどのヤブに負けないで育ててほしいですね。

赤塚公園どんぐりまつり

日時：10月22日（火祝）10：00～15：00（雨天中止）

場所：赤塚公園中央地区イチョウ並木（板橋区高島平3丁目噴水のある場所）

いたばし水と緑の会も参加します。

徳丸ヶ丘緑地 自然発見ツアー

出発時間10：10 13：30（1時間程度）

生き物達の展示

どんぐりまつりの前に「徳丸ヶ丘緑地」の下見を兼ねた観察会をします。

日時：10月12日（土）10時～11時 小雨実施

集合場所：5号線歩道橋下（徳丸8丁目、高島平駅からけやきの並木の突き当たり）

連絡先：坂本 090-4618-1295

活動のお知らせ

運営委員会：9月28日(土) 12:30~13:30

10月26日(土) 12:30~13:30

作業・観察の後に報告や活動内容などを相談します(ラーメンしらかば)。

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

9月21日(土)の予定

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田(3969-7124)まで

1 赤塚ピオトープ(赤塚トンボ池、バッタ広場)の手入れ

9月28日(土) 10:00~11:30 バッタ広場の手入れ

10月26日(土) 10:00~11:30 バッタ広場の手入れ

集合は赤塚トンボ池前(板橋区立美術館そば)(予定を変更する場合があります)

雨天の場合は中止または延期します。連絡先:事務局または坂本(090-4618-1295)

2 赤塚城址自然観察会

どなたでも参加できます。子どもさんも一緒にどうぞ。生きものは観察したら自然に帰してあげましょう。小雨でも実施。連絡先:事務局または坂本(090-4618-1295)

10月13日(日) 10:00~11:30

11月10日(日) 10:00~11:30

集合場所:板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費:無料(保険には加入していません)もってくるもの:あれば双眼鏡、虫眼鏡、

3 赤塚公園徳丸ヶ丘緑地観察会

10月12日(土)10:00~11:00(小雨実施)

集合場所:5号線歩道橋下(徳丸8丁目、高島平駅からけやきの並木の突き当たり)

連絡先:坂本 090-4618-1295

3 日暮台公園樹林地の観察(今回は観察日変更です。よろしく)

10月6日(日) 10:00~11:30

11月3日(日) 10:00~11:30

日暮台公園前集合

連絡先:事務局または坂本(090-4618-1295)

●ピオトープボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺(赤塚トンボ池)や草地(赤塚公園バッタ広場)などの観察と手入れ作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。作業や観察会で身近な自然を発見するのが楽しいです。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」(隔月発行)お送りします(年会費2000円:振込先は表紙に記載)。